

【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】
2018年度 最優秀校
国立大学法人鹿児島大学教育学部附属小学校

地域の小学校教育を先導する実践的研究に取り組む中において、理科教育を中心に「科学が好きな子ども」を育てる取り組みを長年にわたって展開されてきました。こうした真摯で地道な実践の中で、今回の論文では、2014年度からの4年間の「わくわく」「じっくり」「なるほど」をキーワードとした授業改善の取り組みを踏まえ、「教科プロジェクト」、「連携プロジェクト」、「環境プロジェクト」を掲げ、PTAや大学等と連携して学校全体で総合的な取り組みを展開されています。

授業改善の柱となる「教科プロジェクト」では、教材の工夫と発問に視点を当て、子どもたち一人一人が自分の課題をもって問題解決を図る理科・生活科の実践が展開されています。教材と発問は、授業を構成する基本的な要素ですが、実際の授業展開においても実践を重ねた貴校ならではの内容を示していただきました。例えば、5年理科「電流が生み出す力」では、電磁石のはたらきに迫る教材と単元構成の工夫により、子どもの見方・考え方の深まりが見られました。

「連携プロジェクト」では、大学との連携によりドラゴンフルーツなどの地域教材を取り上げて実生活と結び付けた学習展開を図ったり、PTAとの連携により科学にかかわる体験活動や探究活動を積極的に展開するなど、子どもの豊かな学びや科学体験を実現していました。

「環境プロジェクト」では、校舎内外の環境整備を行い、子どもの活動を称揚する展示や科学への関心を高める掲示が行われ、学ぶ雰囲気作りに努めていました。

この3つのプロジェクトが学校とPTAや大学などとの連携協力体制のもとで長年にわたって展開されていることも、たいへん意義のあることです。